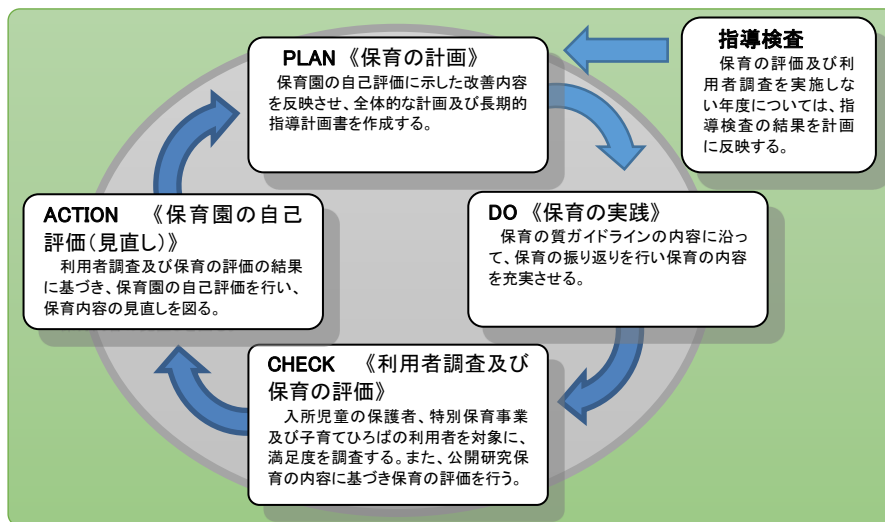


令和5年度 八王子市立保育園（公設公営園） 保育所の自己評価

国は、平成29年（2017年）3月31日に公示された新保育所保育指針の中で、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」と明記しています。また、八王子市は、平成30年12月に、公立保育園が八王子市の保育における中核的な役割を果たしていくため、「八王子市（公設公営園）保育の質ガイドライン」を策定しました。

保育園が、保育施設としてその運営や保育内容等について保護者の皆様や地域の皆様に説明することは、保育所の重要な責務です。このことを踏まえ、公立保育園では保育の質の向上を図るために、利用者調査、公開研究保育とともに保育所の自己評価を実施しました。

今後は、評価の結果を踏まえ当該保育所において保育内容等の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより強固なものとなるようにしてまいります。



評価責任者

八王子市子ども家庭部子どもの教育・保育推進課

子安保育園 施設長 小笠 和代

令和5年度（2023年度） 保育所の自己評価 評価結果

| 評価項目 | 評価結果 | 評価結果・具体的事例および改善方法 |
|---|------|---|
| <p>保育の方針 1</p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持てるようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p> | 81% | <p>保育者等は、子どもが安心感をもって保育園生活が送れるように寄り添い、応答的な態度で接するように努めた。また、主体的な遊びを通して学ぶことができる環境が提供できるように努めた。</p> <p>今後も子どもが生活の中で自己を十分に発揮し、ありのままの子どもを認めながら自己肯定感を育てていきたい。</p> |
| <p>保育の方針 2</p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p> | 77% | <p>保育者等は、子どもが生活の様々な場面で友だちとの関わりを通して、多様な考えに触れ、お互いの良さを認め合う仲間関係を構築するよう努めた。</p> <p>今後もそれぞれの発達を肯定的に受け止めるとともに、特別な支援を要する子どもの保育については、より全体で話し合う機会を設け、援助方法の統一に努めていく。</p> |
| <p>保育の方針 3</p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p> | 77% | <p>3歳以上児クラスについては、異年齢クラスでの交流を積極的に行い、異年齢の子ども同士が混ざり合つて遊ぶ環境を設け、年下の子どもを思いやり、年上の子どもに憧れの気持ちをもったりする経験ができるよう努めた。</p> <p>次年度以降は、送迎車両の運行が終了となるため、本園と分園間の交流を計画的に実施できるよう努めていく。</p> |
| <p>食育</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p> | 86% | <p>給食の提供方法について職員間で検討を重ね、より楽しい雰囲気の中で食事ができるように努めた。</p> <p>今後は、発達年齢を考慮しつつ、子ども自身が食事量等について自己選択や自己決定ができる機会を設けるように努めていく。</p> |
| <p>子育て支援</p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p> | 73% | <p>保育者等は、在園児及び在宅の子育て家庭の保護者の思いを傾聴し、子どもの姿を肯定的に伝え、その育ちをともに喜び合えるよう努めた。</p> <p>今後は状況に応じた社会資源の情報を提供できる職員の育成に努めるとともに、関係機関との連携を図り、養育力の向上に寄与していく。</p> |
| <p>職員の資質向上</p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p> | 75% | <p>八王子市立保育園（公設公営園）「保育の質のガイドライン」及び「乳幼児すくすくてくてくガイドライン」を基盤に園内研修に取り組み、幼児教育・保育の質が向上するよう努めた。</p> <p>今後は、個別で受講した研修内容についても、報告しあう等、より一層、組織力の向上に努めていく。</p> |
| <p>安全管理と災害への備え</p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p> | 82% | <p>安全計画を作成し、避難訓練や事故防止に関する研修等を実施してきた。また、ヒヤリハットの情報共有や日常点検等を実施し必要に応じた修繕も行ってきた。</p> <p>今後は保育者等の危機管理意識の向上に努め、子どもの安心・安全を守ることができる組織の構築に努めていく。</p> |